

## 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度	平成 24 年度
--------	----------

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	田沢湖図書館図書資料購入費							
担当課係名	田沢湖図書館	課	係	作成者	藤原 眞栄			
総合計画での位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち			総合計画のページ  96			
	基本計画	生涯学習の推進と社会教育施設の整備						
	主要施策	社会教育施設の充実						
予算費目	一般	会計	10 款	教育費	5 項	社会教育費	3 目	図書館費
事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規/継続の区分		継続			
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理							
根拠法令等	図書館法、図書館法施行令、図書館法施行規則							
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務							
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営（一部民間委託） <input type="checkbox"/> 民間委託（全部） <input type="checkbox"/> 補助							

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市民(市外者含む)
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	利用者のニーズに合わせた環境づくり(配架等)、他館とのネットワークを活用して地域に密着した図書館を目指す。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	文化・教養・調査・娯楽等に役立つ資料等の収集及び利用者の日常生活に役立つ図書の収集に努める。

【事務事業の推移】

		項 目		単 位	23年度実績		24年度実績	
					23年度実績	24年度実績		
効果	活動指標	購入冊数	目標					
			実績	冊	1,323	2,119		
			達成度	%				
	成果指標	貸出冊数	目標					
			実績	冊	18,975	17,973		
			達成度	%				
投下コスト	項 目		総事業費	23年度決算額(千円)	24年度決算額(千円)			
	事業費(人件費を除く)(A)			2,648	2,633			
	人 件 費 (B)		—	25,437	24,858			
	職 員 数		—	3.00	3.00			
	職 員 平 均 人 件 費		—	8,479	8,286			
	(A) + (B) 投下コスト		—	28,085	27,491			
	財源内訳	国 庫 支 出 金			0	0		
		県 支 出 金			0	0		
		地 方 債			0	0		
		そ の 他			0	0		
		一 般 財 源			28,085	27,491		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	21,228	12,974			
	市民1人当たりのコスト(円)		—	944	935			

【事務事業の今までの成果】

リクエストに極力応える形で可能な限り購入し、利用者サービスに努めている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	秋田県立図書館は利用率の向上を図るため、各市町村立図書館の支援を行っている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 閉館時間の延長はできないか</li> <li>・ 休館日についての検討（学習資料館と田沢湖図書館の休館日をずらすことはできないか）</li> <li>・ ホームページから検索、予約できるようにしてほしい</li> <li>・ 朗読コンサートやおはなし会など回数増やしてどんどんやってほしい</li> </ul>

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
<b>A</b>	A 現状のまま継続（実施）	田沢湖図書館の地域には書店がなく、地域住民の文化的要求に応えるため現状のまま継続する必要があると判断した。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

角館・田沢湖両図書館の管理システムが統合されたことにより、データの精度を向上させることが必要。さらに盗難防止のための機器の導入が必要。

【二次評価】

判定	判定に至った理由
<b>B 2</b>	図書館運営のあり方の検討と併せて、図書機能の更なる充実のために、学校施設を含めた図書システムの利用促進と他施設との連携強化並びに、図書流通の充実を図る必要があると考えます。

